

イプロナゾール・銅水和剤による水稻種子大量消毒法

【1 成果の要約】

水稻種子のばか苗病や細菌病類等に防除効果の高いイプロナゾール・銅水和剤 7.5 倍液の 3%量吹き付け処理は、催芽時の芽の動きが少し遅くなりますが、苗の生育への影響も認められないため、大型の種子消毒機械に適用できます。

【2 成果の内容】

(1) 使用薬剤と使用方法

イプロナゾール・銅水和剤(商品名：テクリードCフロアブル)の 7.5 倍液に分散剤を加用して調製した薬液を、大型の種子消毒機械で水稻乾燥種子重の 3%量を吹き付け処理します。

(2) 実用性

大量消毒法で吹き付け処理した種子は、200 倍低濃度液 24 時間浸漬法と比較して、催芽時の芽の動きがやや遅くなりますが(表 1)、苗の生育への影響(極度の根上がりや鞘葉の奇形、草丈・葉齢・マット形成)は認められません(図 1)。ただし、無加温出芽では、若干生育が劣り、マット形成が弱くなる場合があります(図 2、表 2)。

表1 種子消毒剤の処理方法、浸種温度が催芽(ハト胸状態到達率)に及ぼす影響

催芽時間	大量			200倍			無消毒		
	5	10	15	5	10	15	5	10	15
24時間後	5%	20%	50%	5%	30%	70%	10%	40%	90%
30時間後	-	-	75%	-	-	85%	-	-	95%
48時間後	30%	80%	-	40%	85%	-	50%	90%	-
72時間後	50%	-	-	60%	-	-	70%	-	-
75時間後	60%	90%	-	70%	90%	-	80%	95%	-

表2 出芽方式と種子消毒剤の処理方法がマット形成に及ぼす影響

出芽方式	処理方法	浸種温度		
		5	10	15
加温出芽	大量	良	良	良
	200倍	良	良	良
無加温出芽	無消毒	中	良	良
	大量	中	中	良
	200倍	中	良	良
	無消毒	否	否	中

【3 留意事項】

- (1) 本剤はいもち病、ばか苗病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、苗立枯病(リゾプス、トリコデルマ)に対し防除効果があります。
- (2) 残液は、種子消毒廃液処理装置で処理するか産業廃棄物として、河川等に流出しないように適正に処理します。
- (3) 大量消毒法で消毒した種子を用いる場合の基本的な育苗管理等として、①浸種水温は 12~15℃とし、10℃以下にしない、②苗立枯病に対する防除は病害虫防除指針に従い別途実施する、③細菌病対策として、催芽・出芽温度は 30℃を超えない、④加温出芽を基本とする、⑤使用しなかった種子は絶対に食用や飼料としない…を徹底しましょう。

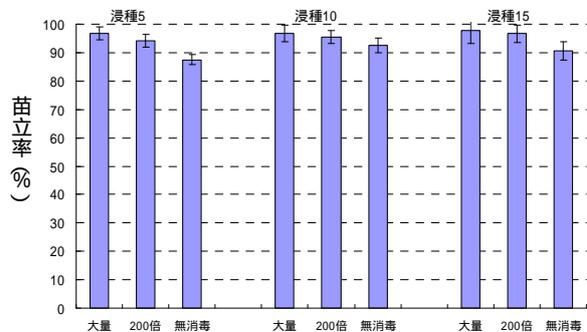


図1 加温出芽でのひとめぼれの苗立率

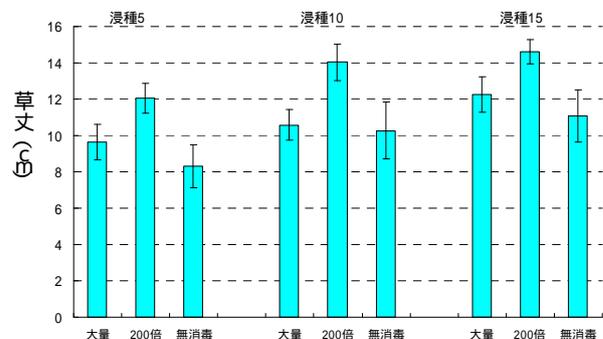


図2 無加温出芽でのひとめぼれの草丈